町内遺跡発掘調査報告書

——平成5年度試掘調査報告書——

1994. 3

坂城町教育委員会

町内遺跡発掘調査報告書

——平成5年度試掘調査報告書——

1994. 3

坂城町教育委員会

例　　言

1　本書は、長野県埴科郡坂城町における開発事業に伴う、平成５年度の町内遺跡の試掘調査並びに立会い調査の報告書である。

2　調査の費用は、国庫及び県費の補助金を得て、町費で対応した。

3　調査は坂城町教育委員会が実施し、事務局の構成は以下のとおりである。

教　育　長　島田雅男（平成５年６月退任）
　　西沢民雄（平成５年７月就任）
社会教育課長　塩野入　猛
文化財係長　山崎政弘
文化財係　助川朋広、小平光一

4　調査の体制

調査指導者　森　嶋　稔（日本考古学協会員、長野県考古学会長、千曲川水系古代文化研究所主幹）
担当者　助川朋広（坂城町教育委員会学芸員）
調査員　小平光一（坂城町教育委員会学芸員）
協力者　中村久子、宮尾美代子、春原かずい、萩野れい子（以上、町臨時職員）
　　朝倉今朝男、伊藤篤、上野かず江、鈴木猶子、塚田昭一、中村容民、
　　山城嘉雄、山辺ケサエ、山辺春男（以上、㈱更埴地域広域シルバー人材センター）

5　本書の執筆・編集は助川が行った。

6　本書及び調査に関する資料は、坂城町教育委員会の責任下において保管されている。

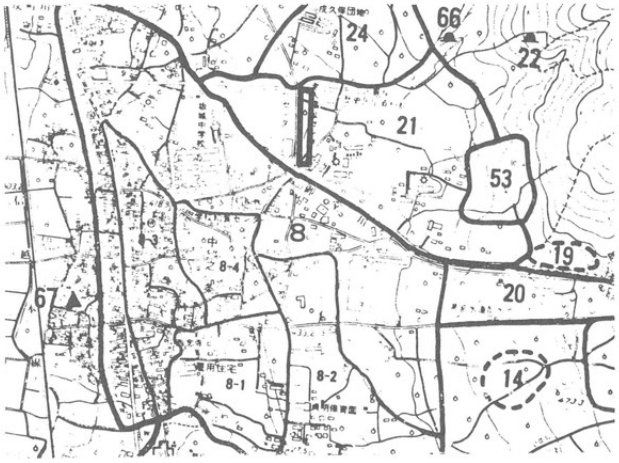
目　　次

例　言
第Ⅰ章　試掘調査……1
1　開畝遺跡Ⅱ……1
2　小野沢遺跡……3
3　網掛原遺跡……5
4　東町遺跡……7
第Ⅱ章　立会い調査……8
1　社宮神遺跡１……8
2　豊饒堂遺跡１……9
3　山崎遺跡１……10
4　中町遺跡１……11

第Ⅰ章　試掘調査

1　開畝遺跡Ⅱ

所 在 地　坂城町大字中之条2434-5他
事業主体　坂城町都市開発課
事 業 名　都市計画街路事業
調査期間　平成５年11月８～12日
面　　積　512㎡（258㎡）



位置図

遺跡の環境と経過

開畝遺跡は、坂城町中之条に所在し、標高434m内外を測る。御堂川によって形成された扇状地の扇央部に位置する。分布地図によると弥生～平安時代の遺跡に位置づけられ、近隣には開畝製鉄遺跡があり、中世の重要な遺跡となっている。

今回、坂城町が行う都市計画街路事業が計画され、遺跡の破壊が余儀なくされたため、試掘調査を実施し、遺跡の存在を確認することとなった。

トレンチ掘削状況（北より）

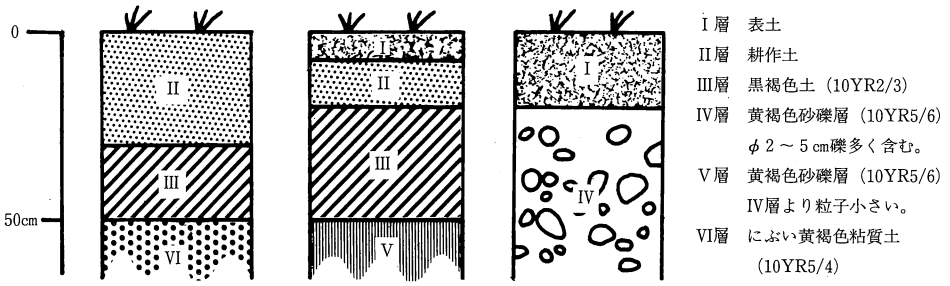
２号トレンチ検出状況（北より）

調査結果

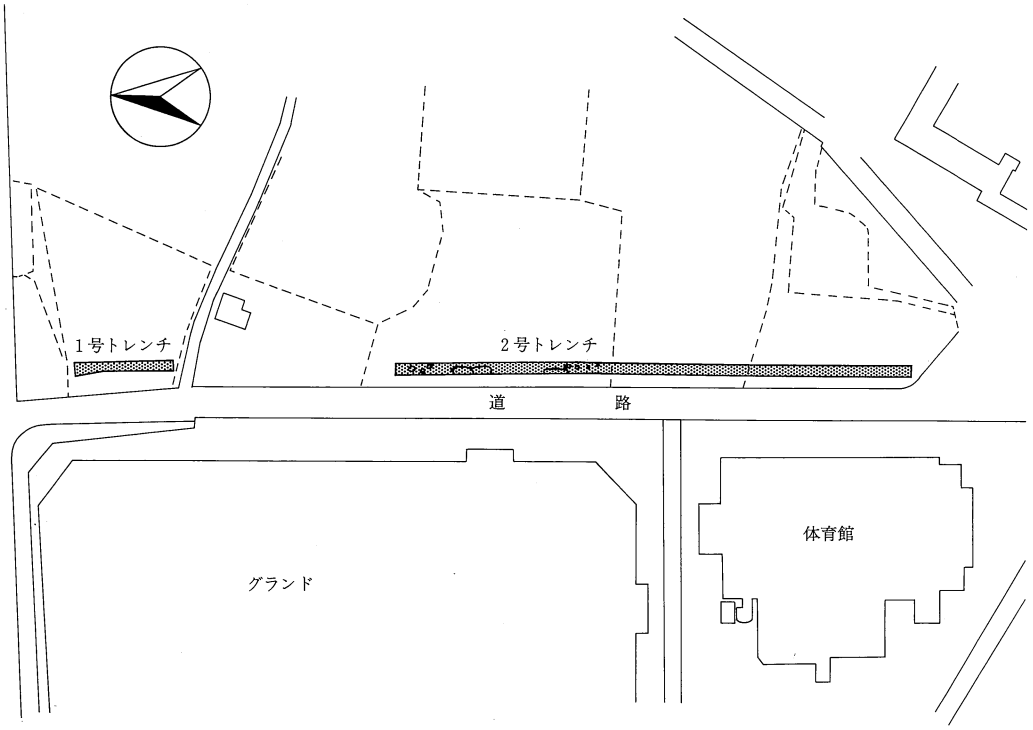
開発事業は、現道の拡幅事業であったため、拡幅部分のみの調査となり、現道に沿って合計２本のトレンチを入れ、遺構の存在を確認した。

１号トレンチでは、遺構遺物の存在を確認できなかったが、２号トレンチの北側では、竪穴住居址３棟・土坑址等が確認された。同トレンチの南側では、御堂川の現河道に接しているため、遺構・遺物が存在しなかった。

今回の調査で遺構の検出された部分約100㎡は、発掘調査を実施することとなった。



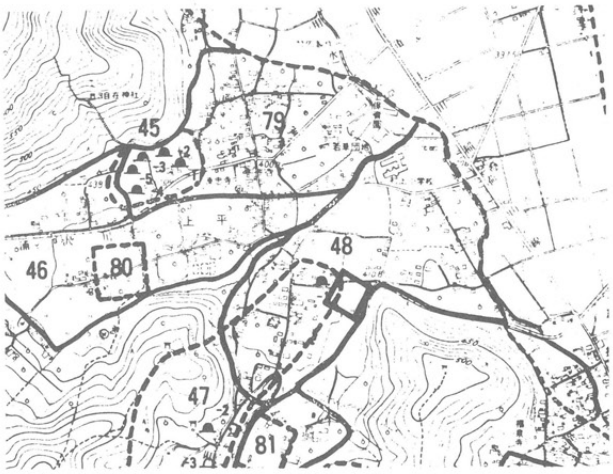
基本土層模式図



発掘調査トレンチ設定図

2　小野沢遺跡

所 在 地　坂城町大字上平字小野沢1570他
事業主体　坂城町福祉課
事 業 名　坂城町立村上保育園建設事業
調査期間　平成５年12月13～18日
面　　積　1,286㎡（727㎡）



位置図

遺跡の環境と経過

小野沢遺跡は、坂城町上平に所在し、標高410m内外を測る。福沢川によって形成された扇状地の扇央部に位置する。分布地図によると弥生～平安時代の遺跡に位置づけられ、近隣には福沢氏居館跡、御厨社古墳があり、古代・中世の重要な遺跡となっている。

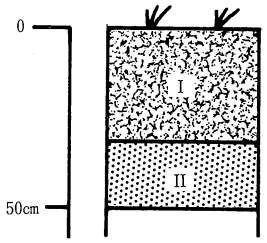
平成４年度に、坂城町が行う村上保育園建設事業が計画され、遺跡の破壊が余儀なくされたため、試掘調査を実施し、遺跡の存在を確認した。その結果園舎部分に遺跡の存在がなかったため、付帯事業の道路及び駐車場建設については、立会い調査と決定した。

しかし、当初計画の道路及び駐車場建設が、舗装と変更となったため試掘調査を実施し、遺構の存在を確認することとなった。

トレンチ掘削状況（南より）

遺構検出状況（北より）

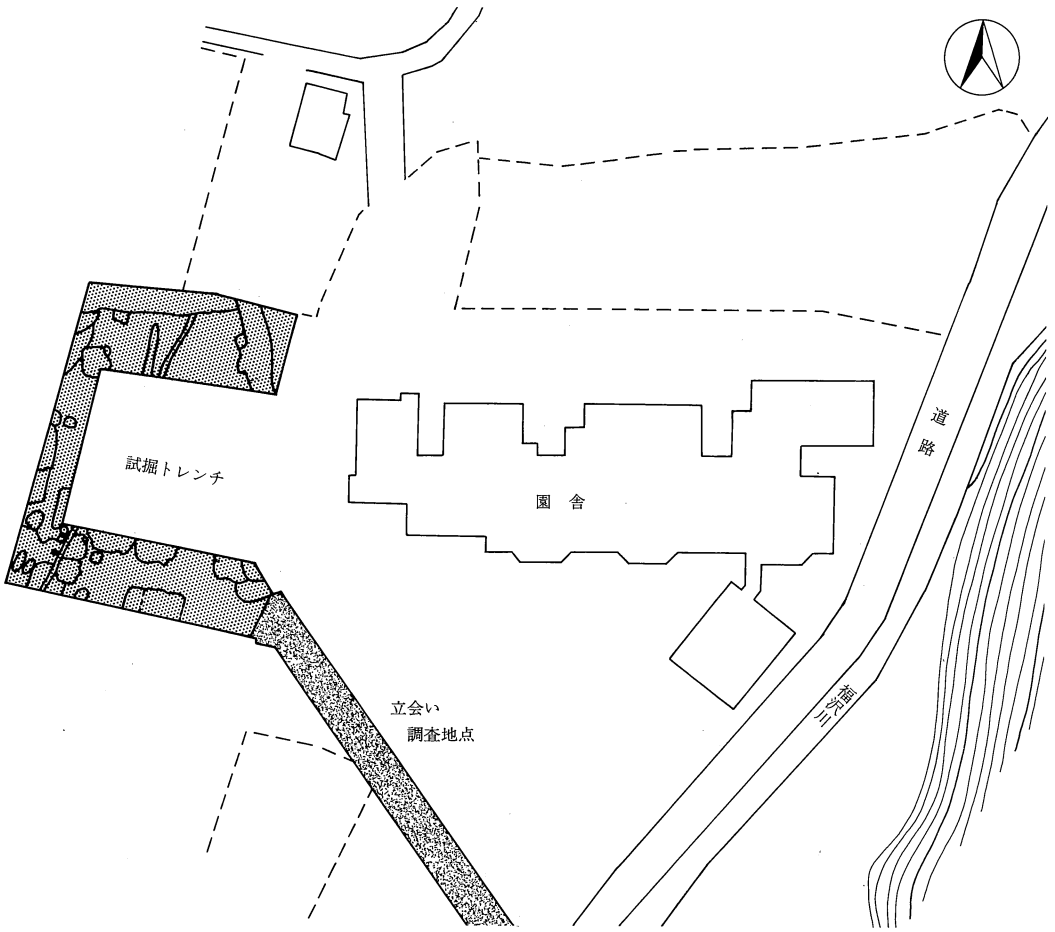
調査結果



I層　耕作土
II層　黄褐色粘質土
(10YR5/6)

基本層序模式図

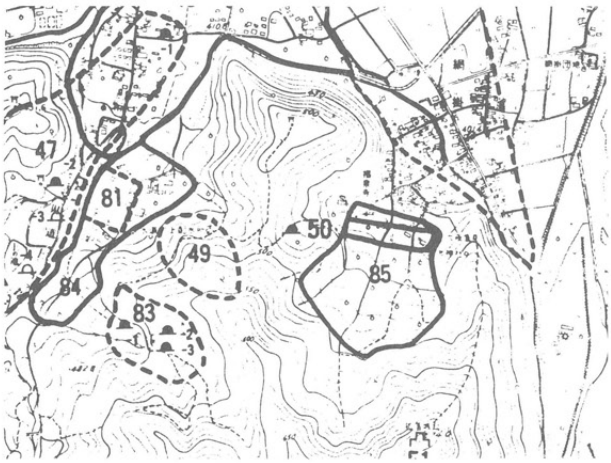
平成４年度の試掘調査地は、福沢川の河道により、遺跡の存在はなく、立会い調査地点でも遺跡は存在していなかった。試掘調査地は、一段上がったところに位置し、竪穴住居址・土坑址・溝状遺構等が検出された。長野県教育委員会との協議の結果、対象地がリース地ということもあり、地下遺構に影響がないように、盛土による簡易舗装を行い遺跡を保護し、リース契約終了時に、再協議を行うこととなった。



小野沢遺跡トレンチ設定図（１：1,000）

3　網掛原遺跡

所 在 地　坂城町大字網掛字福沢3000他
事業主体　坂城町都市開発課
事 業 名　びんぐしの里公園整備事業
調査期間　平成６年３月１～４日
面　　積　8,500㎡（282㎡）

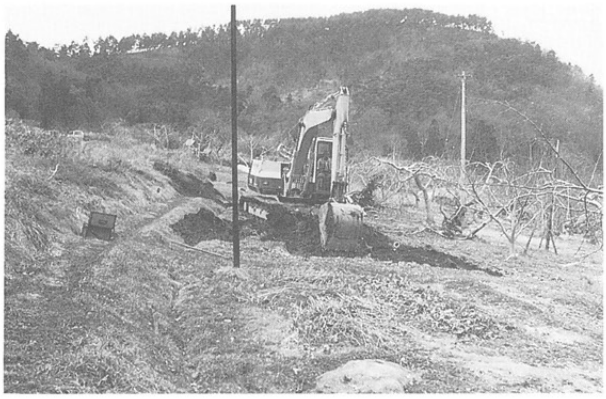


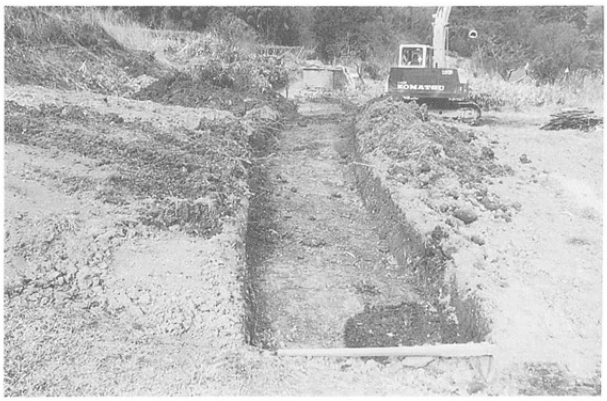
位置図

遺跡の環境と経過

網掛原遺跡は、坂城町村上に所在し、標高450m内外を測る。摺鉢山によって形成された崖錐地形の中央部に位置する。分布地図によると縄文～平安時代の遺跡に位置づけられ、近隣には福泉寺裏古墳、狐落城跡があり、古代・中世の重要な遺跡分布地域で、当遺跡内には、中世の峠に伴う宿場や根小屋の存在も予想される。

今回、坂城町によりびんぐしの里公園事業が計画され、これに伴う道路建設により、遺跡の破壊が余儀なくされたため、試掘調査を実施し、遺跡の存在を確認することとなった。


１号トレンチ掘削状況（東より）

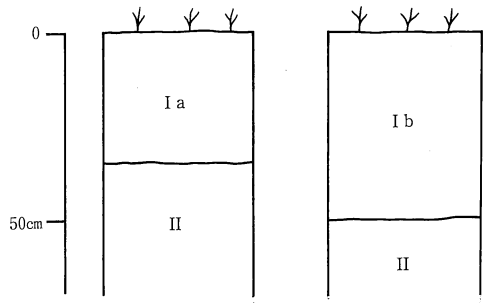


３号トレンチ検出状況（東より）

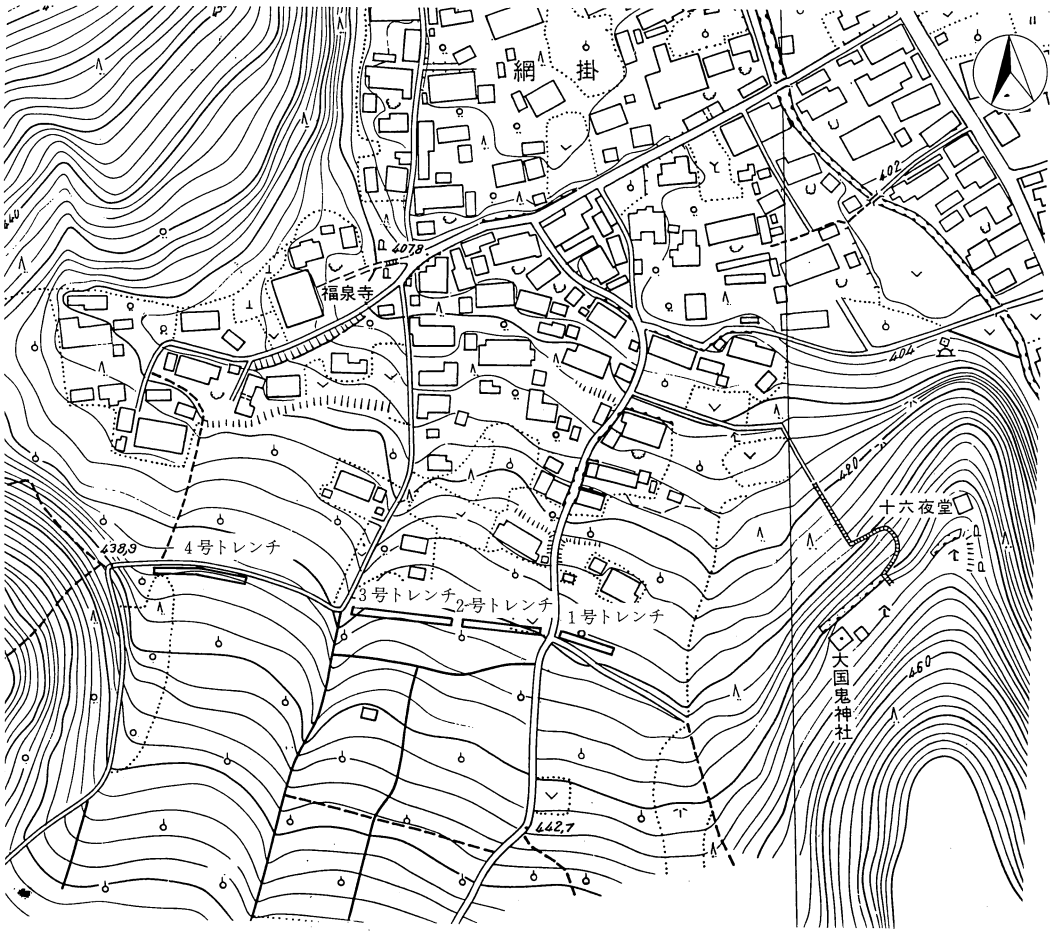
調査結果

調査対象地が道路建設ということで、新設部分と現農道を拡幅する部分に分けられるため、道路の新設部

分を中心に合計４本のトレンチを入れ、遺構の存在確認を行った。１・３・４号トレンチからは、遺構・遺物の検出はできなかった。２号トレンチからは、遺構の存在は確認できないものの、土師器の甕の破片が小数出土した。古代集落の存在は、調査地より上・下部に位置していると思われる。なお、今回の調査では、中世関連の遺構については明らかにできなかった。



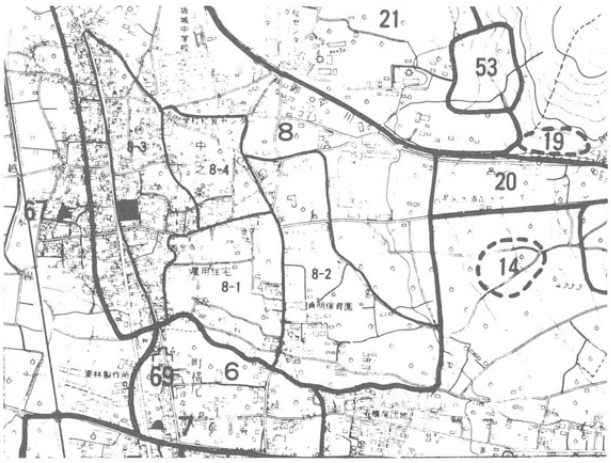
Ia層　褐色砂質土（10YR4/4）
　　表土層
Ib層　にぶい黄褐色砂質土（10YR5/4）
　　表土層
II　層　黄褐色粘質土（10YR5/6）
　　基盤層。礫（φ１～５cm）含む。



網掛原遺跡トレンチ設定図（１：2,500）

4　東町遺跡

所 在 地　坂城町大字中之条字東町811-3
事業主体　坂城町教育委員会社会教育課
事 業 名　埋蔵文化財整理作業所建設事業
調査期間　平成６年３月15日
面　　積　600㎡（10㎡）

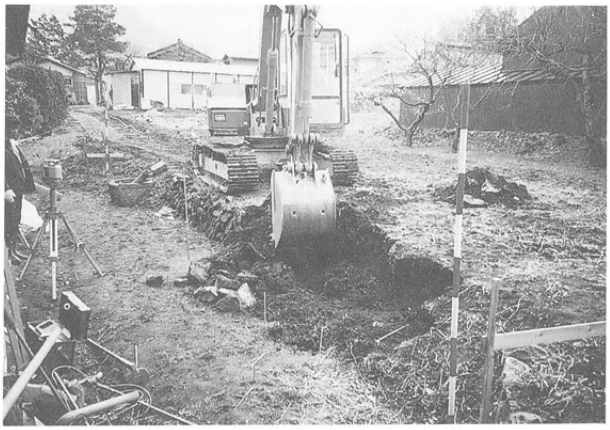


位置図

遺跡の環境と経過

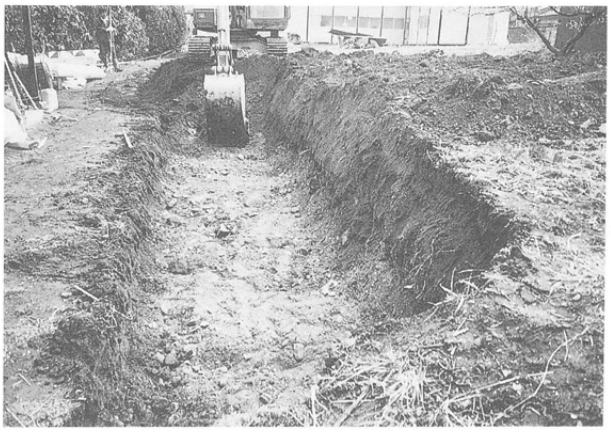
東町遺跡は、坂城町中之条に所在し、標高420m内外を測る。御堂川によって形成された扇状地の扇央部に位置する。分布地図によると弥生～平安時代の遺跡に位置づけられ、近隣には宮上遺跡、寺浦遺跡があり、古代集落の重要な遺跡となっている。

今回の坂城町教育委員会が行う埋蔵文化財整理作業所建設事業が計画され、遺跡の破壊が余儀なくされたため、試掘調査を実施し、遺跡の存在を確認することとなった。


トレンチ掘削状況（西より）

調査結果

今回の計画では、掘削面積が非常に少ないため、すべての掘削部分を確認したが、遺構・遺物の存在は検出できなかった。


トレンチ検出状況（西より）

第II章　立会い調査

1　社宮神遺跡 1

所 在 地　坂城町大字南条字社宮神
事業主体　更埴建設事務所
事 業 名　河川局部改良事業
調査期間　平成 5 年 6 月25日
　　平成 6 年 2 月21日
面　　積　280㎡

位置図

遺跡の環境と経過

社宮神遺跡は、坂城町南条に所在し、標高410m内外を測る。谷川によって形成された扇状地の扇端部に位置する。分布地図によると縄文～平安時代の遺跡に位置づけられ、近隣には北畑古墳、社宮神経塚があり、古代・中世の重要な遺跡となっている。

今回、更埴建設事務所が行う河川改良事業が計画され、立会い調査を実施することとなった。

掘削状況（西より）

調査結果

今回の開発事業は、現河道の改良事業であったため、河道部分の掘削となり、遺構・遺物の存在は確認できなかった。

基本層序（南より）

2　豊饒堂遺跡１

所 在 地　坂城町大字中之条字山崎1643-5
事業主体　中部電力株式会社
事 業 名　送電用鉄塔建設事業
調査期間　平成５年12月２日
面　　積　191㎡

位置図

遺跡の環境と経過

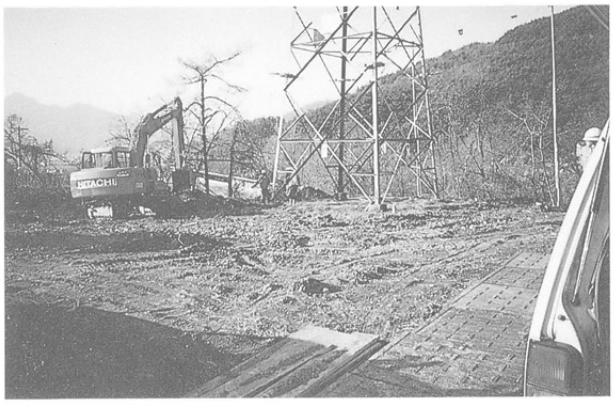
豊饒堂遺跡は、坂城町中之条に所在し、標高460m内外を測る。御堂川によって形成された扇状地の扇央部に位置する。分布地図によると縄文～弥生時代の遺跡に位置づけられ、近隣には御堂川古墳群前山支群、開畝製鉄遺跡があり、古代・中世の重要な遺跡となっている。

今回、中部電力株式会社が行う送電用鉄塔建設事業が計画され、立会い調査を実施することとなった。

掘削近景（西より）

調査結果

今回の開発事業は、送電用鉄塔の４脚部分の掘削ということもあり、遺構・遺物の検出はできなかった。



遺跡近景（南より）

3　山崎遺跡１

所 在 地　坂城町大字中之条字山崎1594-3
事業主体　中部電力株式会社
事 業 名　送電用鉄塔建設事業
調査期間　平成５年12月６日
面　　積　196㎡

遺跡の環境と経過

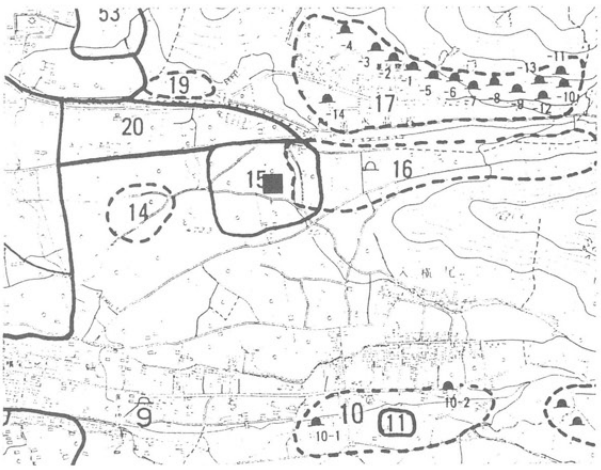
山崎遺跡は、坂城町中之条に所在し、標高480m内外を測る。御堂川によって形成された扇状地の扇央部に位置する。

分布地図によると縄文時代の遺跡に位置づけられ、近隣には御堂川古墳群前山支群、開畝製鉄遺跡があり、古代・中世の重要な遺跡となっている。

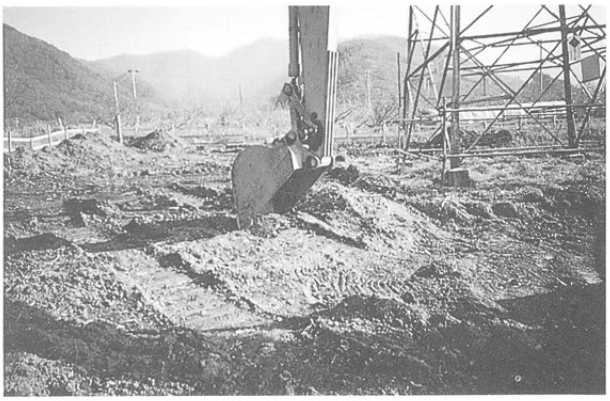
今回、中部電力株式会社が行う送電用鉄塔建設事業が計画され、立会い調査を実施することとなった。

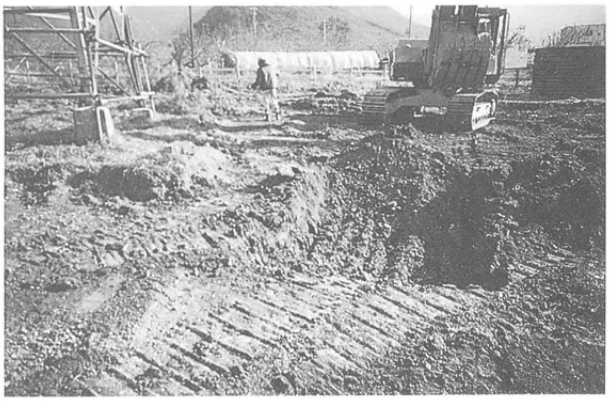
調査結果

今回の開発事業は、送電用鉄塔の４脚部分の掘削ということもあり、遺構・遺物の検出はできなかった。



位置図


掘削近景（南より）


掘削近景（西より）

4　中町遺跡１

所 在 地　坂城町大字南条字中町781
事業主体　坂城町総務課
事 業 名　防火水槽新設事業
調査期間　平成６年１月28日～２月９日
面　　積　25㎡

遺跡の環境と経過

中町遺跡は、坂城町南条に所在し、標高408m内外を測る。千曲川によって形成された河岸段丘上に位置する。分布地図によると弥生～平安時代の遺跡に位置づけられ、近隣には東裏遺跡や塚田遺跡があり、古代の集落・生産の重要な遺跡となっている。

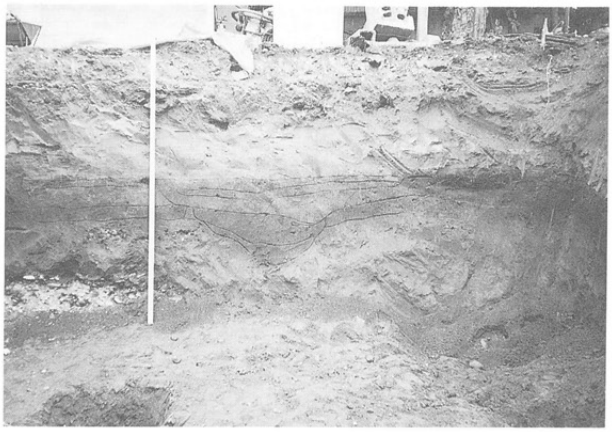
今回、坂城町で行う防火水槽新設事業が計画され、立会い調査を実施することとなった。

調査結果

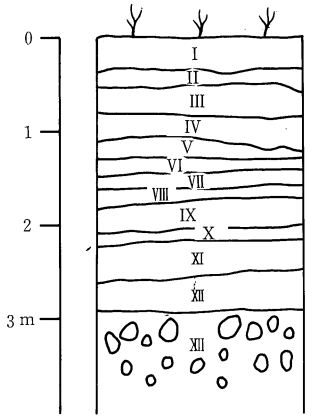
今回の開発事業は、防火水槽の新設のため非常に狭い範囲の掘削ということもあり、立会いで対応した。平安時代と考えられる水田址と古墳時代前半と思われる溝状遺構が確認された。出土遺物では、古墳時代前半の土師器甕、須恵器坏の破片があ

位置図

掘削近景（東より）

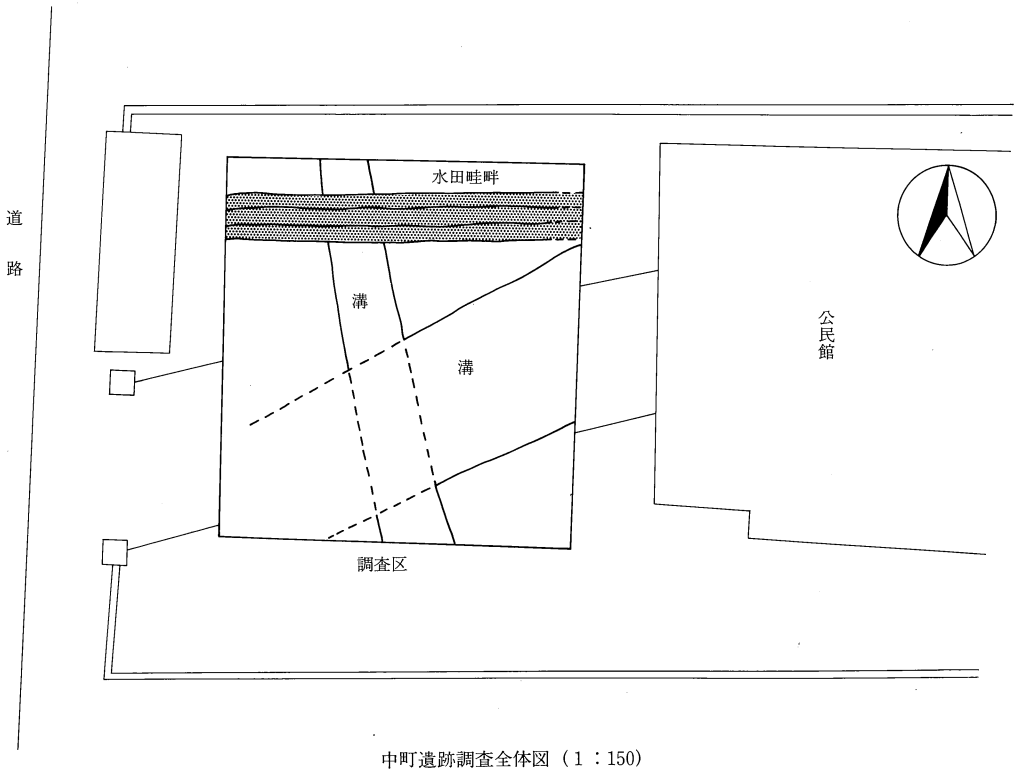

基本層序（北より）

り、近世の寛永通宝が検出された。遺構から当遺跡を考えると、遺構確認面が２面確認され、第１面は平安時代と考えられる水田面、第２面は弥生時代後期から古墳時代前半と思われる面で、近接する東裏遺跡同様近世の面は攪乱されていた。なお、奈良・平安時代に当遺跡は、居住域に適さず、水田として利用されたことが判明し、奈良・平安時代の集落は当遺跡の西方に位置していると考えられ、東方は後背湿地となって当遺跡同様水田が広がっていると思われる。

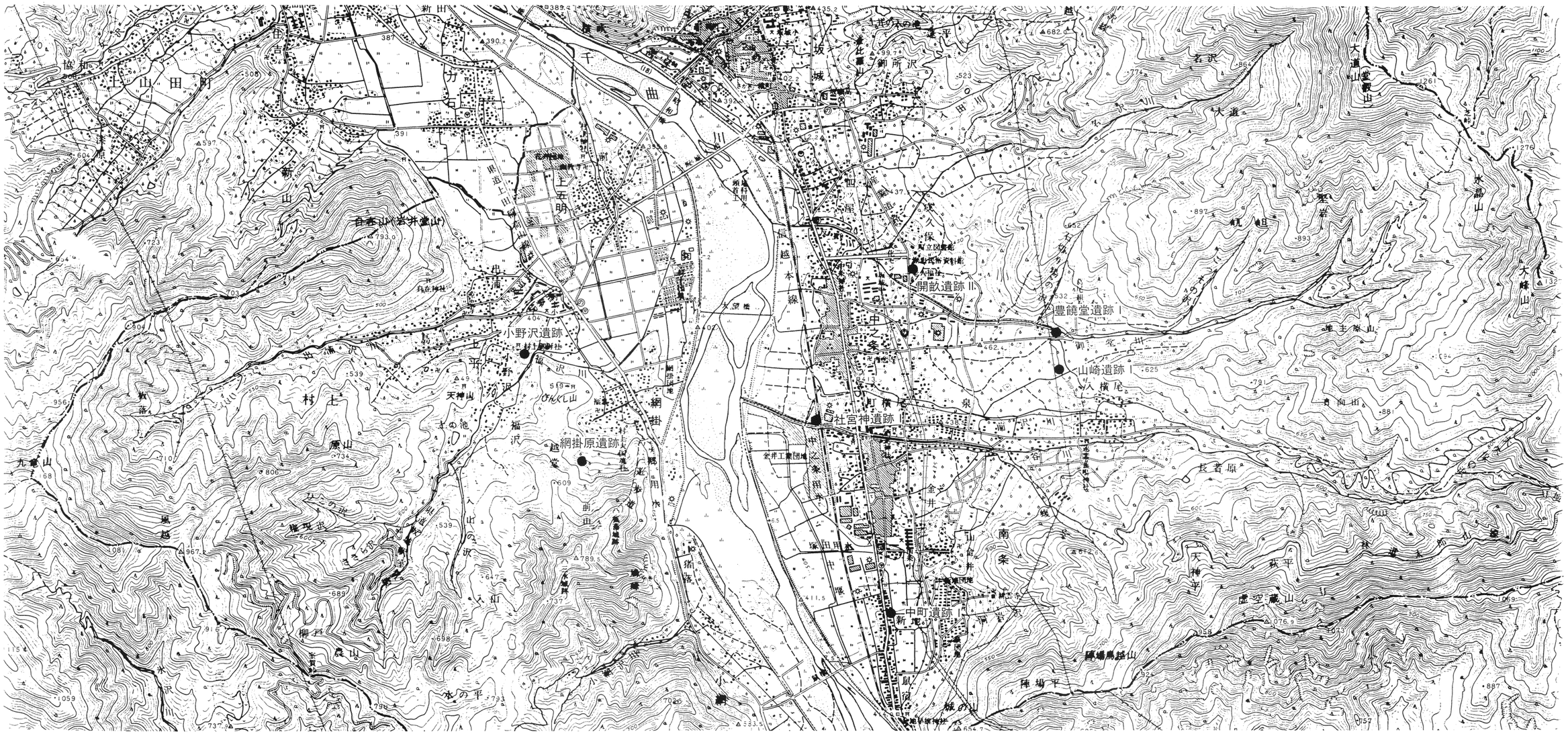


Ⅰ層　明黄褐色土（10YR6/8）表土・盛土。
Ⅱ層　褐色粘質土（10YR4/4）近現代の攪乱層。
Ⅲ層　褐色砂層（10YR4/4）氾濫砂層。砂粒子粗く、鉄分による変色あり。
Ⅳ層　褐色砂層（10YR4/4）氾濫砂層。粒子細かい。
Ⅴ層　にぶい黄褐色シルト層（10YR5/4）平安時代？水田層。
Ⅵ層　黄褐色粘質土層（10YR5/6）溶脱層。
Ⅶ層　にぶい黄褐色粘質土層（10YR5/4）溶脱層。
Ⅷ層　黒褐色シルト層（10YR2/3）古墳時代？遺物包含層。
Ⅸ層　暗褐色シルト層（10YR3/4）細砂粒含む。
Ⅹ層　黒褐色砂質土（10YR3/2）遺構確認面。
Ⅺ層　褐色砂層（10YR4/4）。
Ⅻ層　オリーブ褐色砂層（2.5YR3/4）。
XIII層　オリーブ褐色砂礫層（2.5YR4/4）円礫（φ３～10cm）多量含む。

基本土層模式図



中町遺跡調査全体図（１：150）



町内遺跡発掘調査位置図（1：25,000）

長野県坂城町

町内遺跡発掘調査報告書

1994年3月30日

編集・発行者　坂城町教育委員会

印　刷　所　ほおずき書籍株式会社